

中国地域の経済動向

(2026年1月の指標を中心に)

～持ち直しの動きの中で一部弱含んでいる～

2026年3月19日

(本発表資料のお問合せ先)
総務企画部企画調査課長 中野 伸二
電話：082-224-5633
メール：bzl-chugoku-chosa@meti.go.jp

～判断の推移～

2026年2月（12月指標中心）		2026年3月（1月指標中心）
基調判断	持ち直しの動きの中で一部弱含んでいる	⇒
1. 生産動向	緩やかな持ち直しの動きがみられる	⇒
2. 個人消費	足踏み状態となっている	⇒
3. 雇用	有効求人倍率は前月に比べ上昇、新規求人数は前年同月比で減少	有効求人倍率は前月と同じ、新規求人数は前年同月比で減少
4. 景況感	現状は前月に比べ低下、先行きは横ばい	現状、先行きともに前月に比べ上昇
5. 貿易	輸出、輸入ともに前年同月比で減少	⇒
6. 建設動向	公共工事は前年同月比で増加、住宅建設は前年同月比で減少	公共工事、住宅建設ともに前年同月比で増加
7. 企業倒産	件数、負債総額とも前年同月比で増加	⇒
8. 設備投資	2025年度計画は前年度を上回る見込み	⇒

1. 生産動向 ～緩やかな持ち直しの動きがみられる～

2026年1月の鉱工業生産指数は 100.8、前月比 3.9%の上昇となった（2020年=100、季節調整済）。出荷は上昇、在庫は低下、在庫率は低下となった。

生産を業種別にみると、自動車（乗用車・トラック・主要部品）、汎用・業務用機械工業、食料品・たばこ工業などが上昇し、その他の工業、パルプ・紙・紙加工品工業、金属製品工業などが低下した。

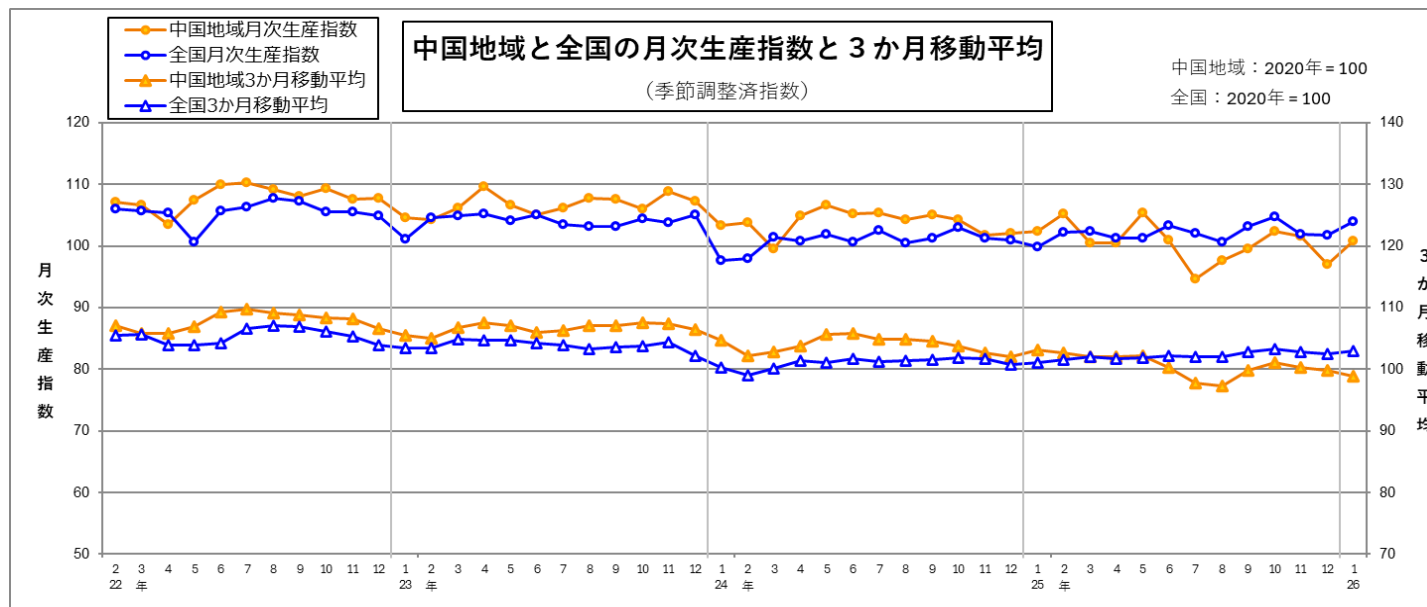
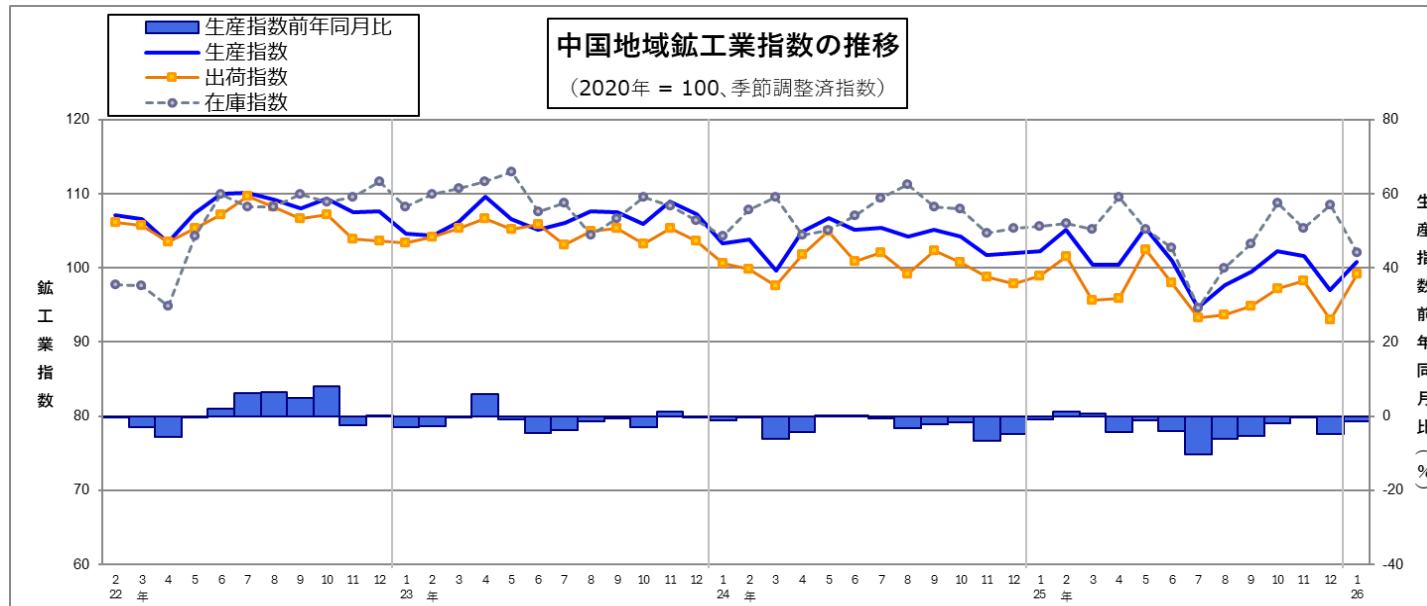
【主要業種の動向】

自動車（乗用車・トラック・主要部品）は、モデルチェンジした一部車種の生産が本格化したことにより上昇傾向が継続。

汎用・業務用機械工業は、国内向け大型製品の生産が増加し、高い水準で推移。

化学工業（除. 医薬品）は、定期修理の終了、設備トラブルからの回復があり生産が増加したものの、低い水準で推移。

詳細データはこちらから



2. 個人消費 ～足踏み状態となっている～

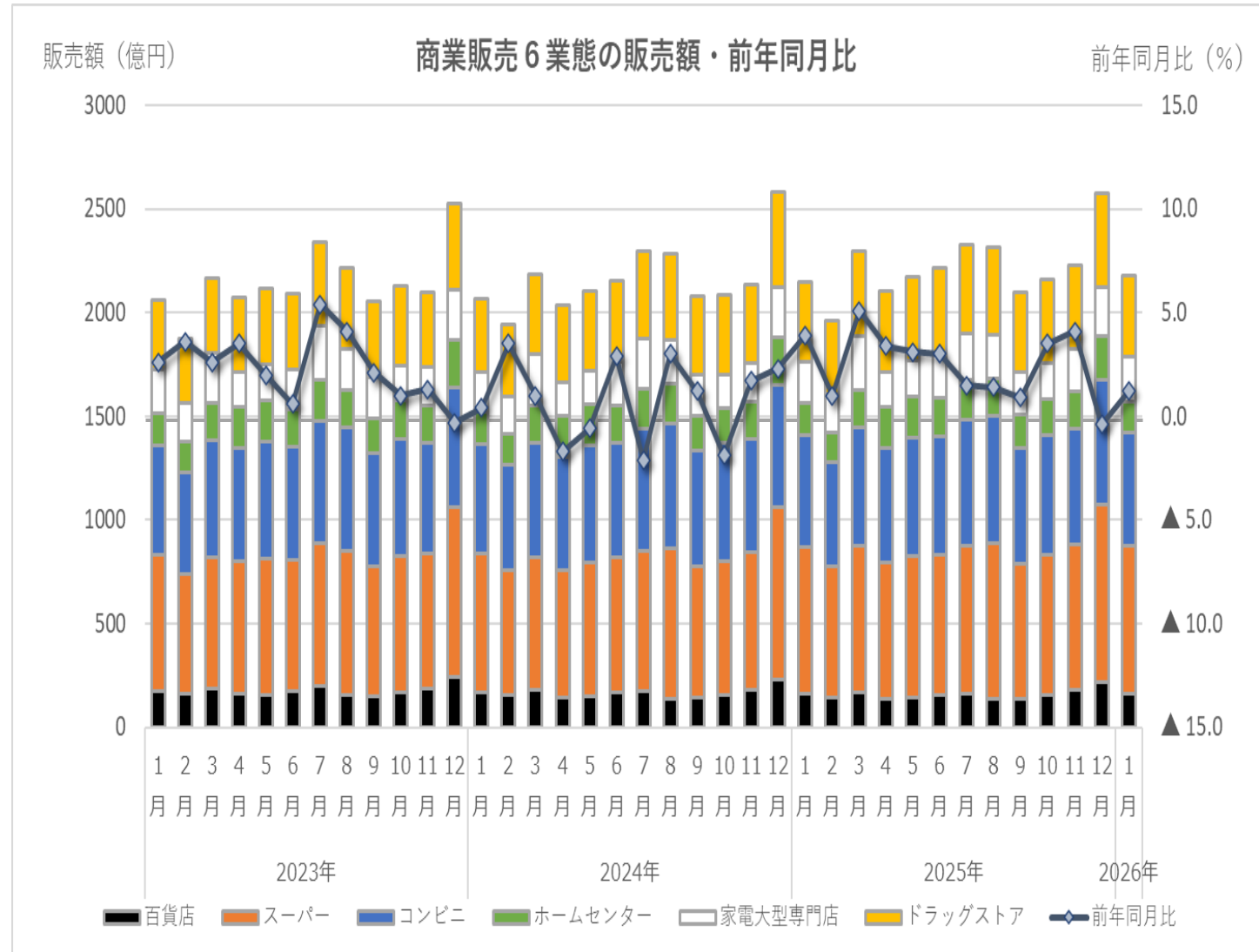
2026年1月の商業6業態の販売額は2,175億円で、前年同月比1.2%と2か月ぶりに前年を上回った。

(百万円) (全店舗、%)

	6業態における構成比	販売額	前年同月比		前月の前年同月比
6業態		217,509	1.2	2か月ぶりにプラス	▲ 0.4
百貨店	7.3%	15,985	▲ 0.2	2か月連続マイナス	▲ 2.9
スーパー	33%	71,780	1.2	15か月連続プラス	2.2
コンビニエンスストア	25.1%	54,595	1.3	4か月連続プラス	1.6
ホームセンター	6.9%	14,909	▲ 3.3	6か月連続マイナス	▲ 5.7
家電大型専門店	10%	21,738	8.4	2か月ぶりにプラス	▲ 3.2
ドラッグストア	17.7%	38,502	▲ 0.3	2か月連続マイナス	▲ 2.1

	店舗数	前年同月比
百貨店	12	0.0 %
スーパー	341	1.5 %
コンビニエンスストア	3,053	0.0 %
ホームセンター	401	0.0 %
家電大型専門店	177	0.6 %
ドラッグストア	1,067	1.9 %

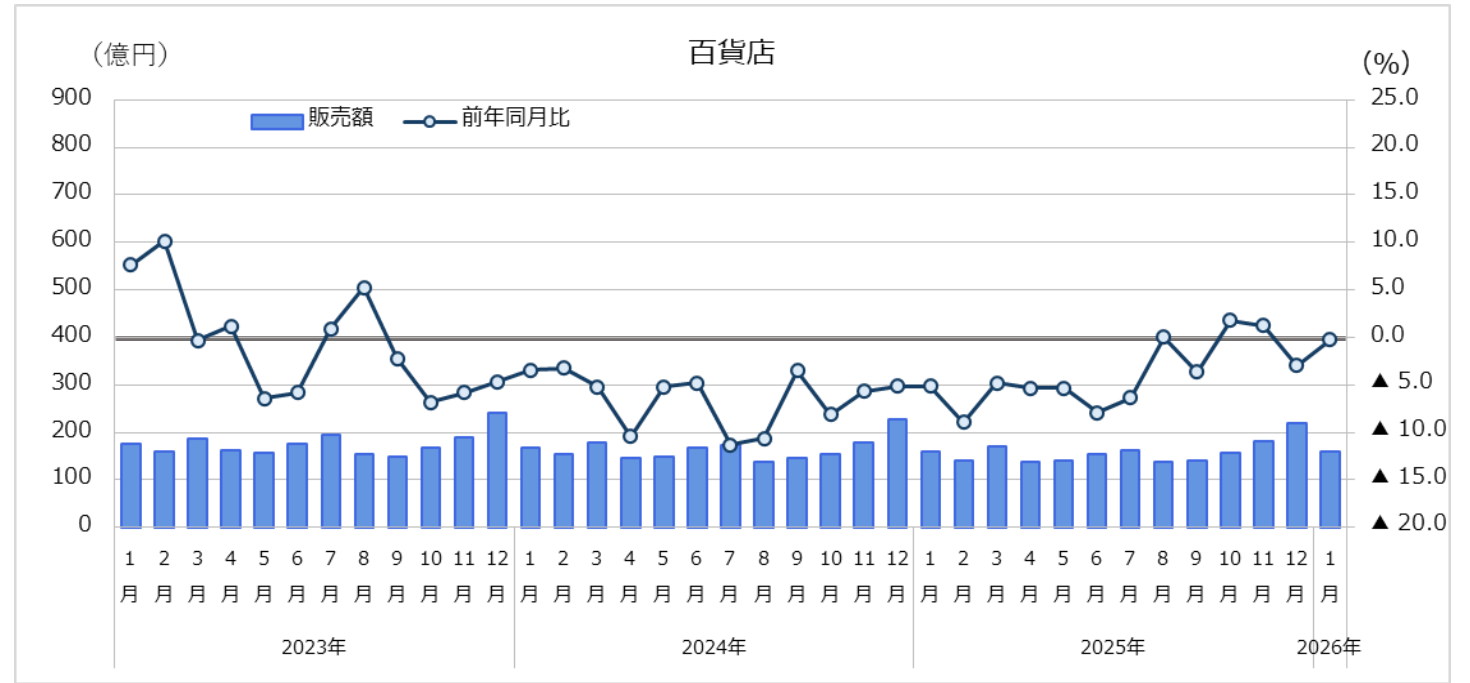
その他のデータはこちらから



2. 個人消費

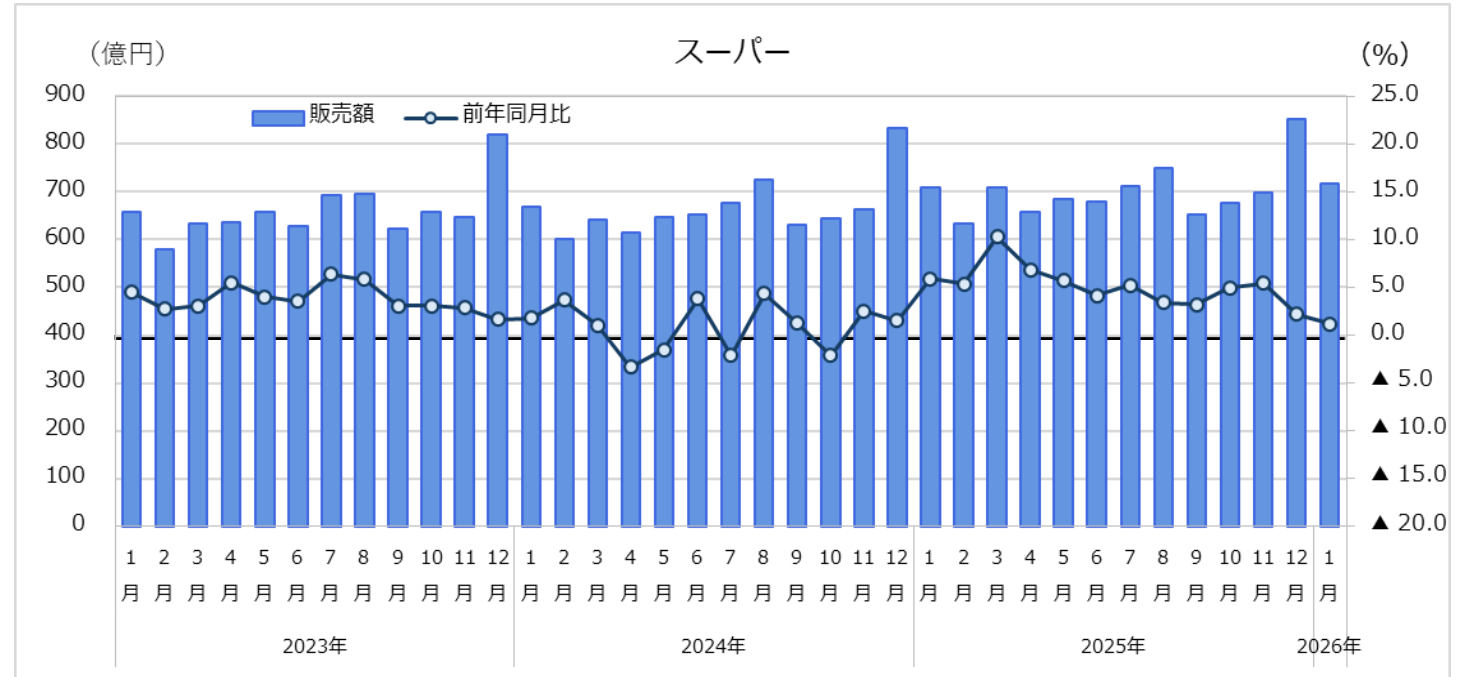
(1)百貨店の状況

雪や地震によって客数が減少した。また、セール品が振るわずコートなどの重衣料が低調だった。飲食料品は総菜が低調だった一方、食品福袋は好調だった。そのほか、宝飾品や金製品、時計などの高額品が好調だった。



(2)スーパーの状況

年始は寿司や刺身などの少量パックが好調だった。また、価格上昇により卵やコーヒーの売上が増加した。そのほか、鍋などの調理器具が好調だった。一方、オードブルが低調だったほか、米や葉物野菜の相場が前年より下がったことで売上が減少した。



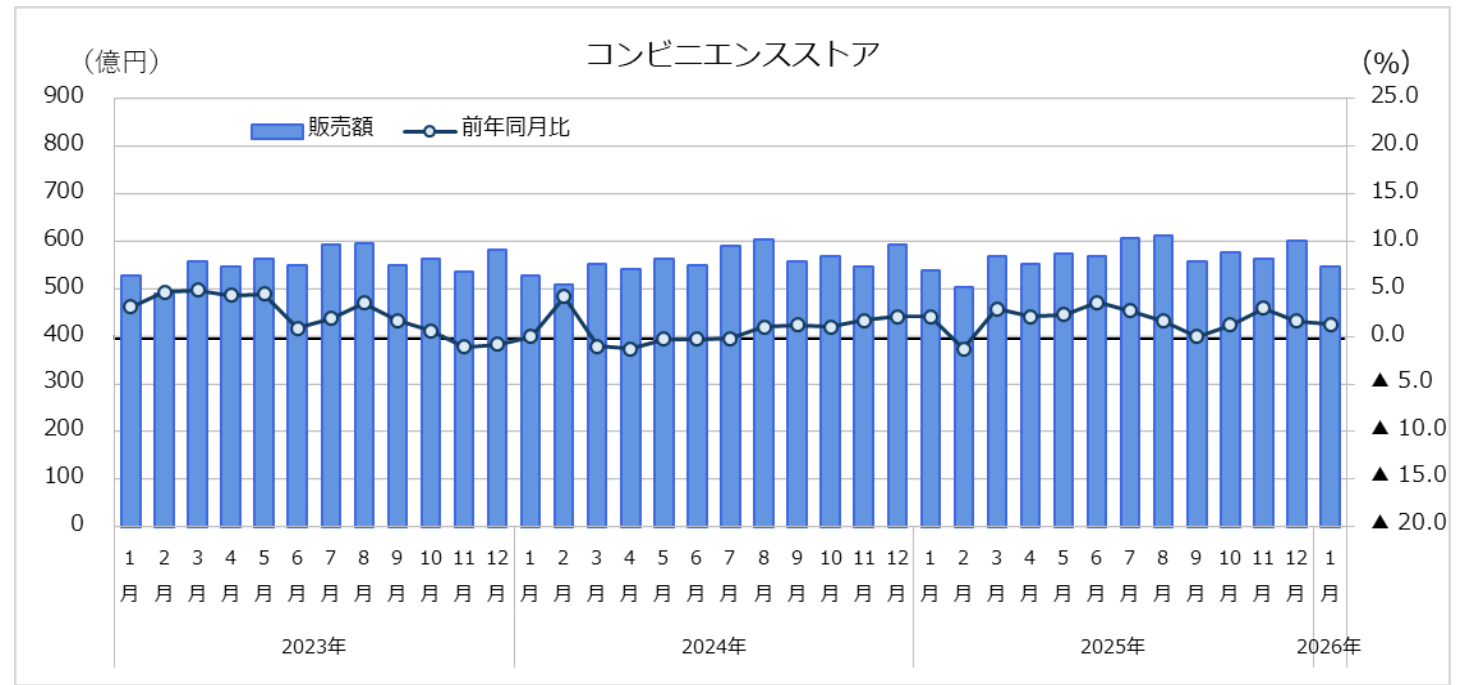
詳細データはこちらから



2. 個人消費

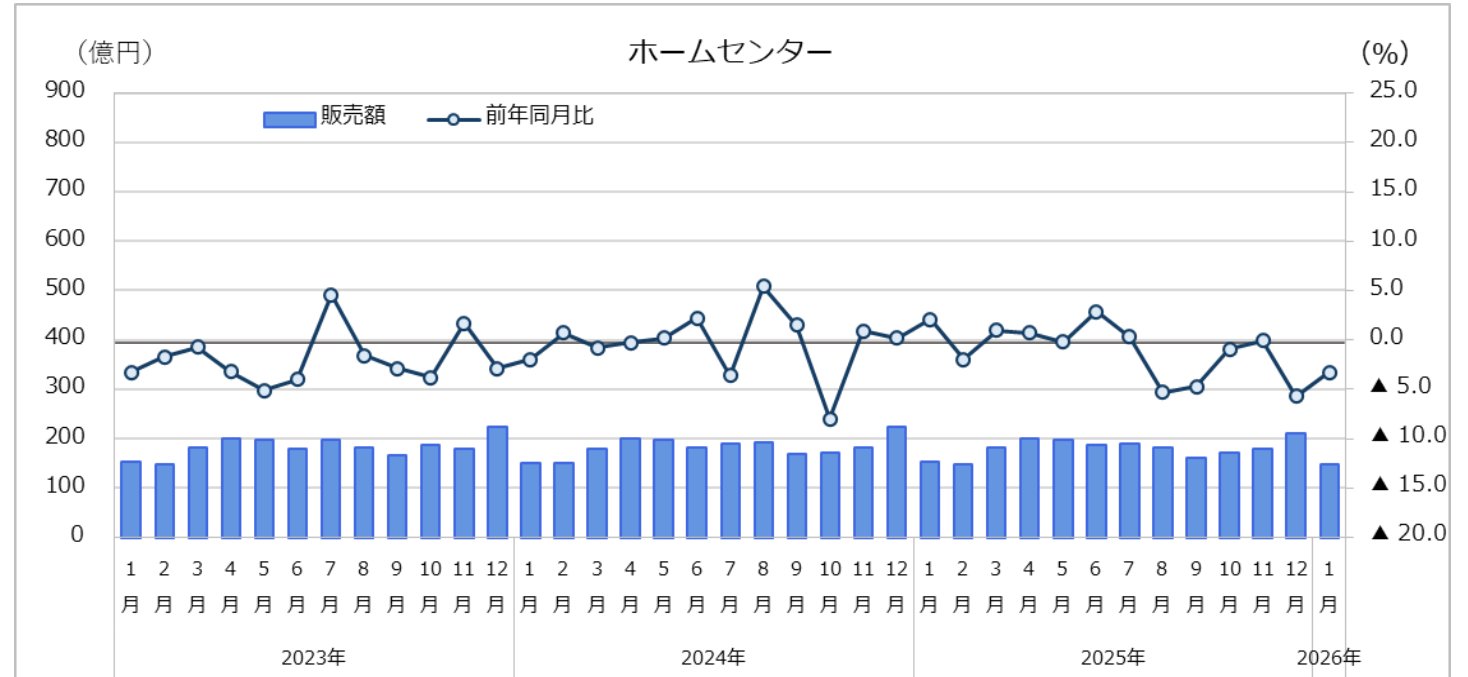
(3) コンビニエンスストアの状況

割安感と販売促進効果で調理パンや揚げ物が好調だった。また、価格上昇で菓子の売上が増加したほか、キャラクター玩具が好調だった。一方、物価高による節約志向の高まりで弁当などの高価格商品が低調だった。



(4) ホームセンターの状況

物価高による節約志向の高まりで寝具などのインテリアが低調だったほか、需要が減少した米が振るわなかった。また、前年防犯・防災需要が高まった反動で電球や電池の売上が減少した。一方、後半からの気温低下により暖房器具や防寒作業着によい動きがみられた。

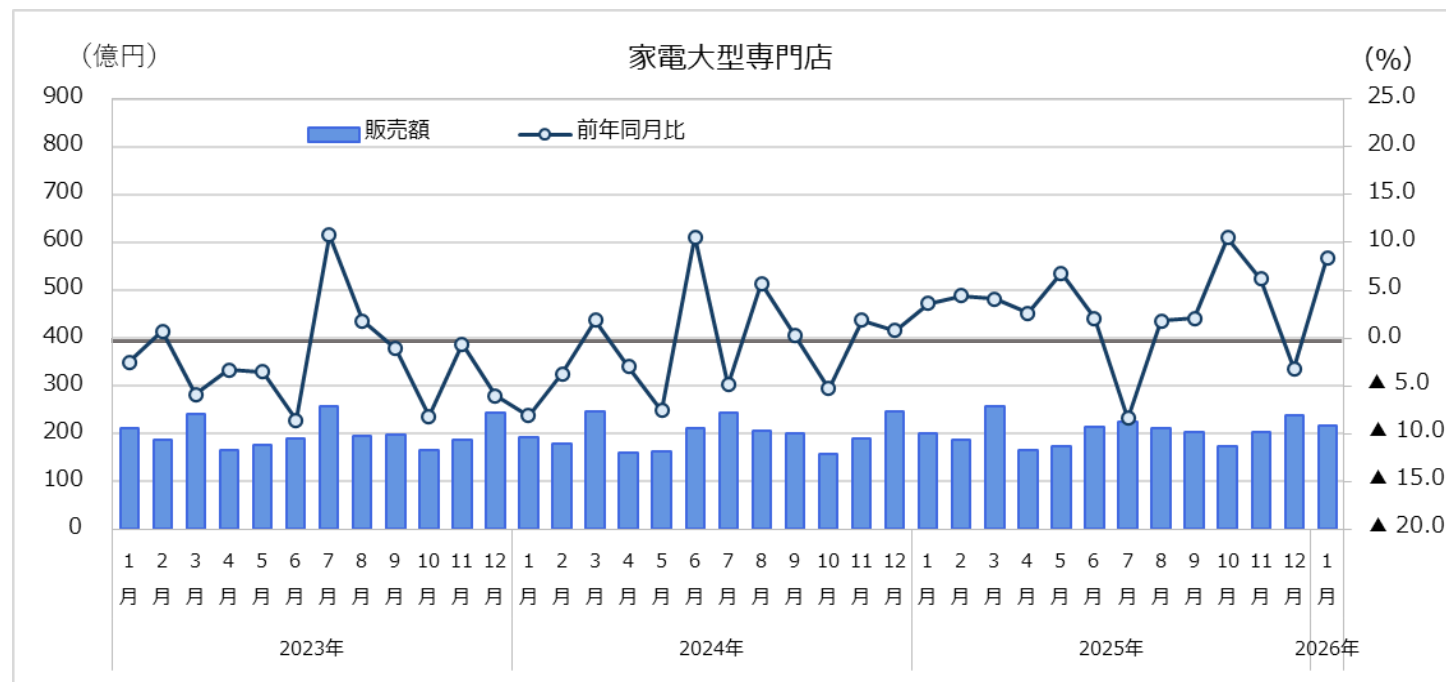


(資料) 「商業動態統計調査」 (経済産業省)

2. 個人消費

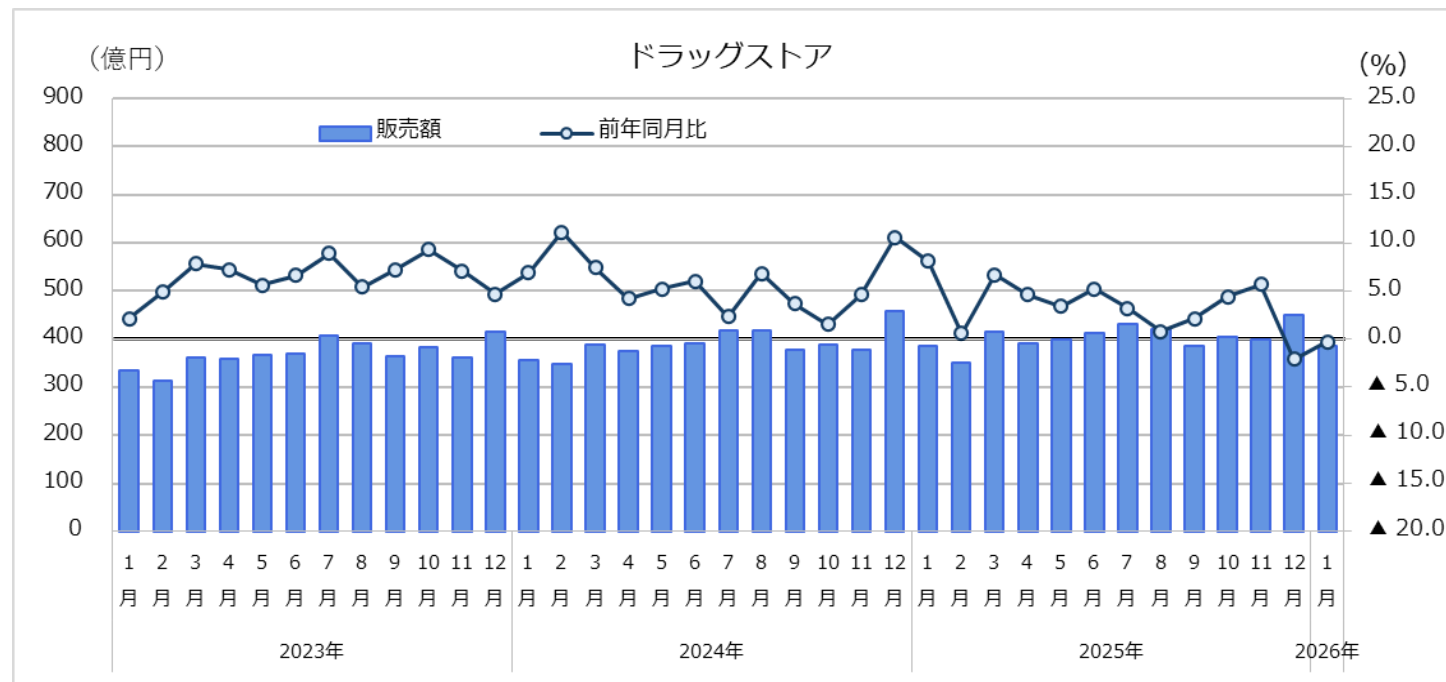
(5)家電大型専門店の状況

需要の高まりによりパソコン、デジタルカメラが好調だった。また、初売りセールと気温低下によりエアコンにより動きがみられた。そのほか、販売促進効果により携帯電話が好調だった。



(6)ドラッグストアの状況

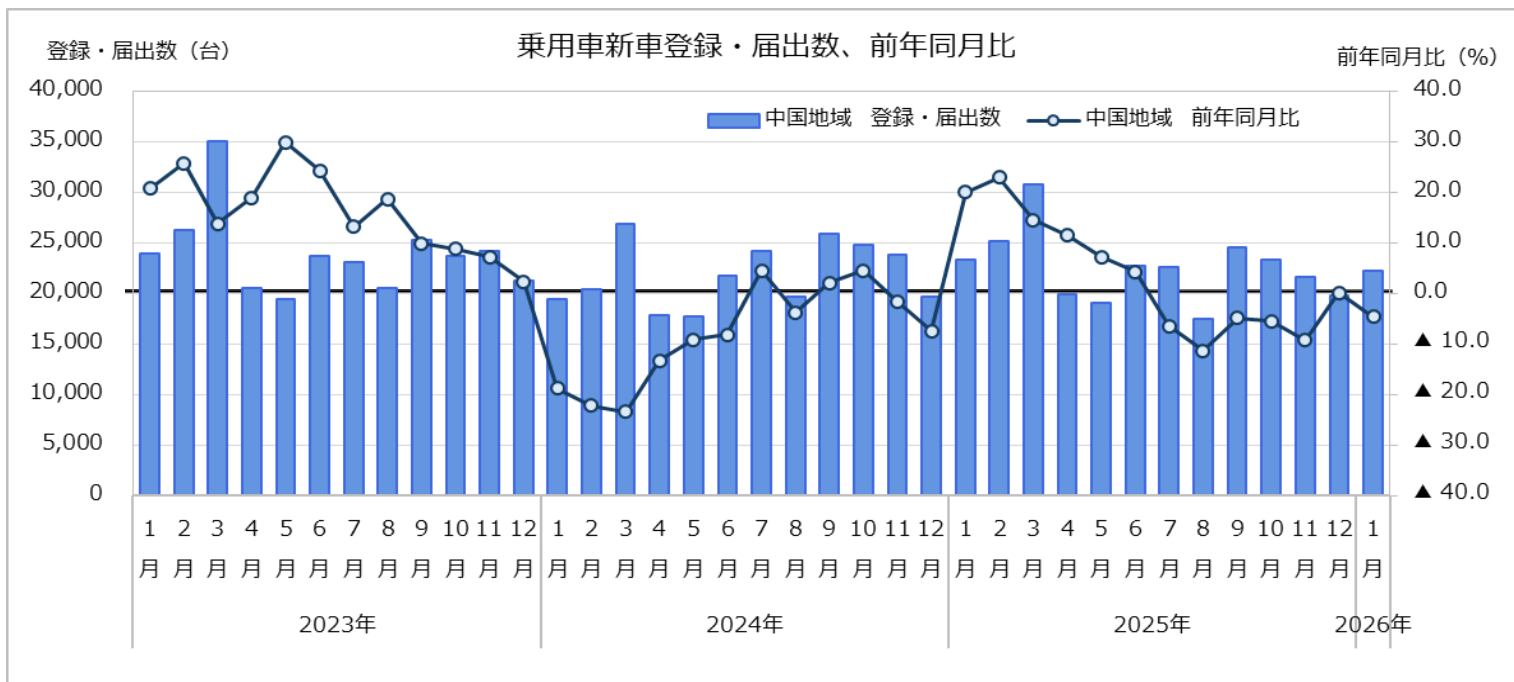
前年インフルエンザが流行した反動により総合感冒薬、マスク、体温計が低調だった。一方、販売促進効果で菓子、飲料が好調だった。また、後半からの気温低下により、基礎化粧品やリップ、ハンドクリームやボディケア用品が好調だったほか、カイロにも動きがみられた。



2. 個人消費

●乗用車新車登録・届出数

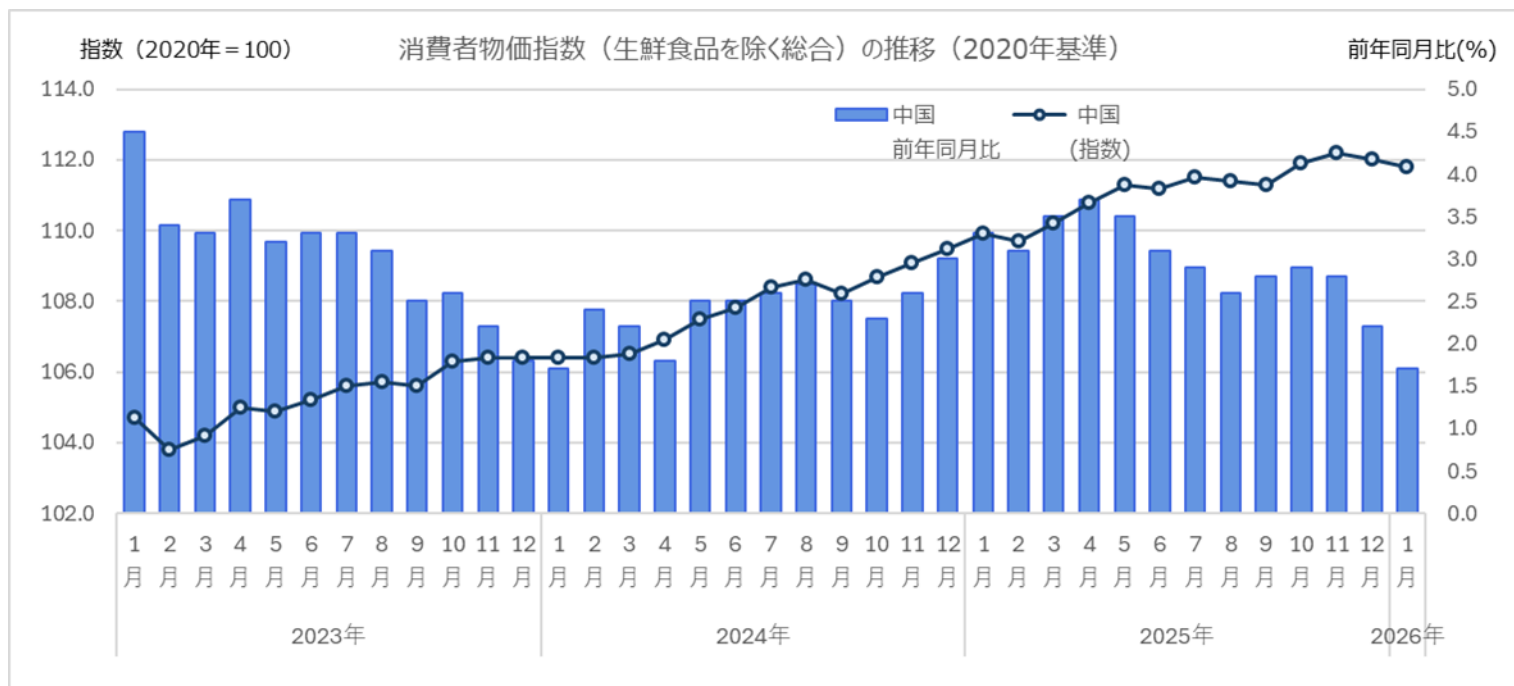
2026年1月の乗用車新車登録・届出数は、小型乗用車が前年同月を上回ったものの、普通乗用車、軽乗用車が前年同月を下回り、合計では前年同月比▲4.6%と2か月ぶりに前年を下回った。



(資料) 中国運輸局資料をもとに中国経済産業局作成

●消費者物価指数 (中国地域)

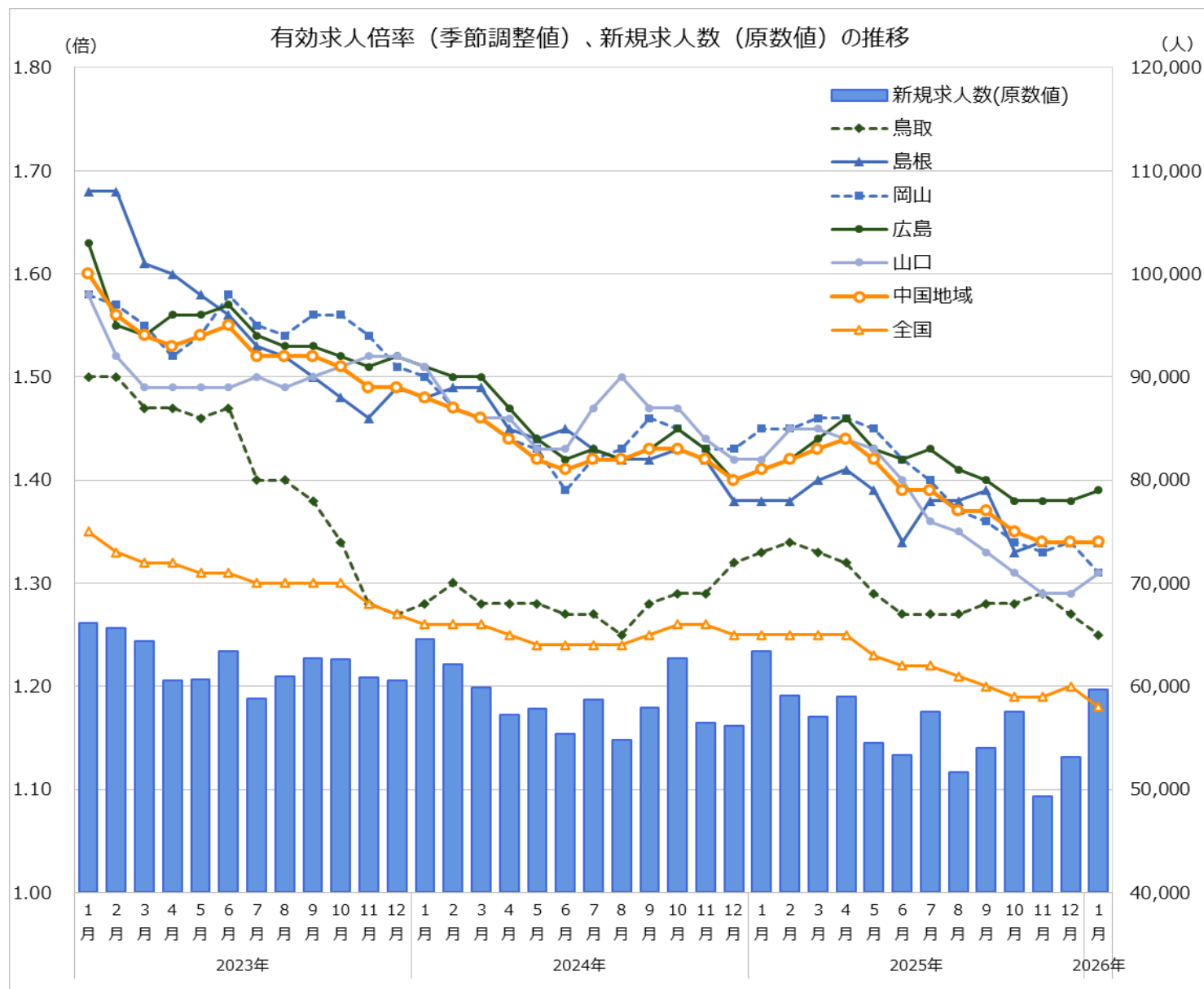
2026年1月の消費者物価指数 (生鮮食品を除く総合指数) は前年同月比1.7%の上昇となった。



(資料) 「消費者物価指数」 (総務省)

3. 雇用 ～有効求人倍率は前月と同じ、新規求人数は前年同月比で減少～

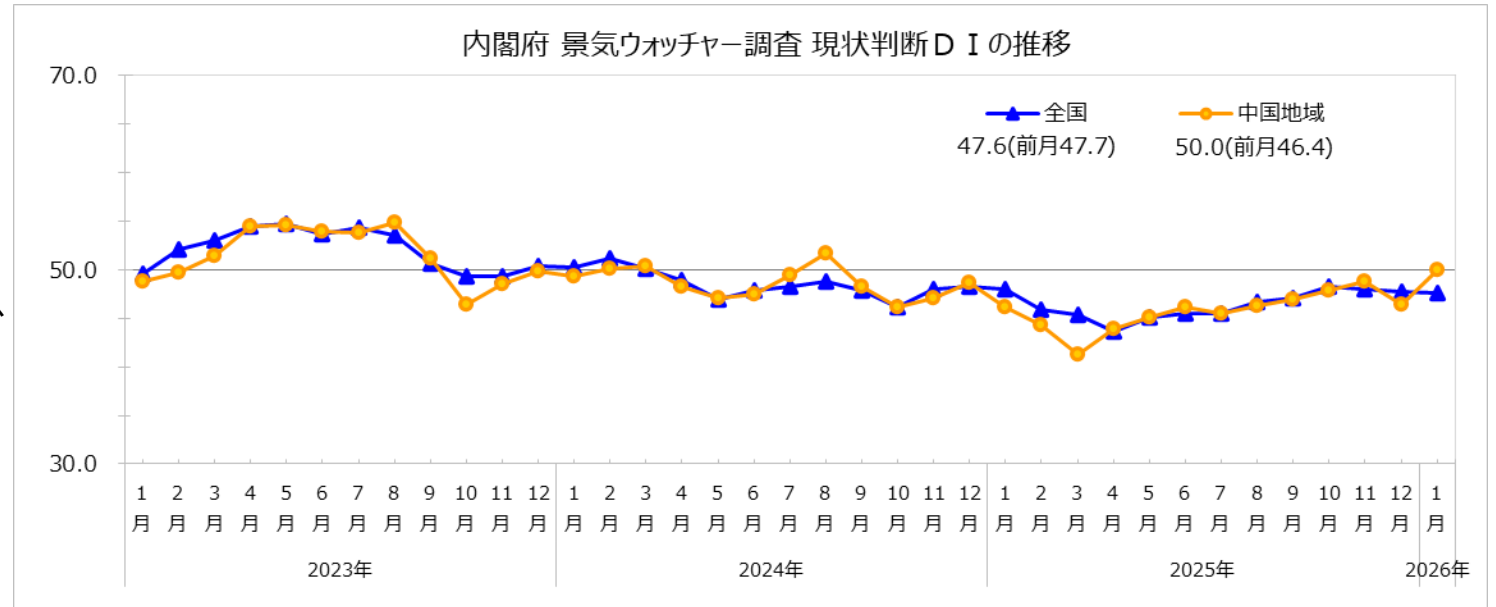
2026年1月の有効求人倍率は、1.34倍で前月の値と同じとなった。
 また、新規求人数（原数値）は、前年同月比▲5.9%で9か月連続の減少となった。



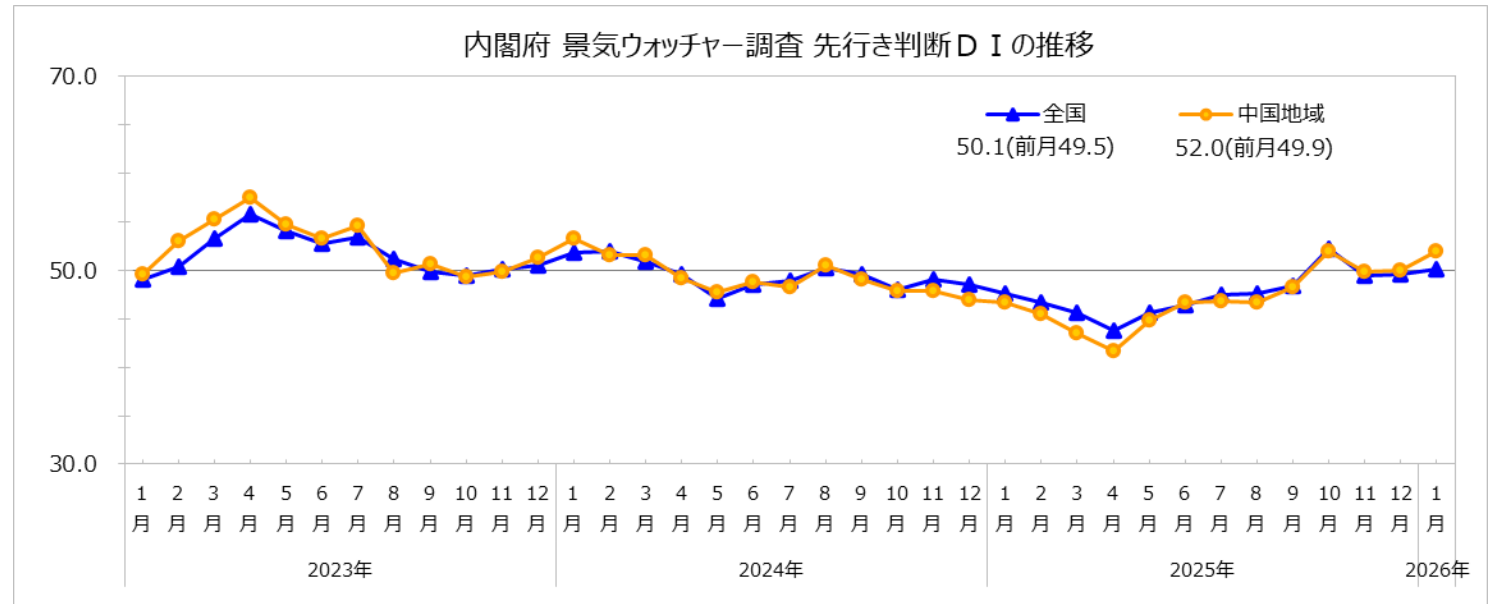
(資料) 「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」(厚生労働省)

4. 景況感 ～現状、先行きともに前月に比べ上昇～

内閣府の景気ウォッチャー調査（令和8年1月調査結果）によると、中国地域の3か月前と比較しての景気の現状に対する判断D I（方向性）は50.0となり、前月差3.6ポイントの上昇となった。

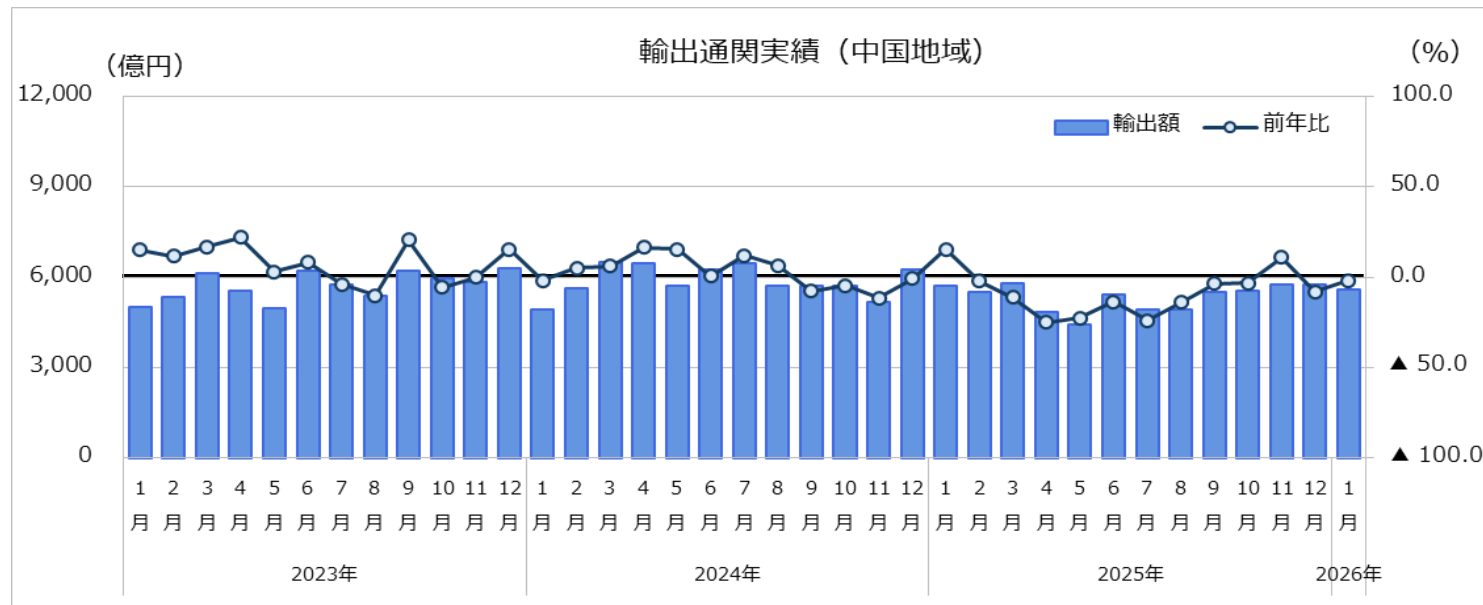


2～3か月先の景気の先行きに対する判断D I は52.0となり、同2.1ポイントの上昇となった。

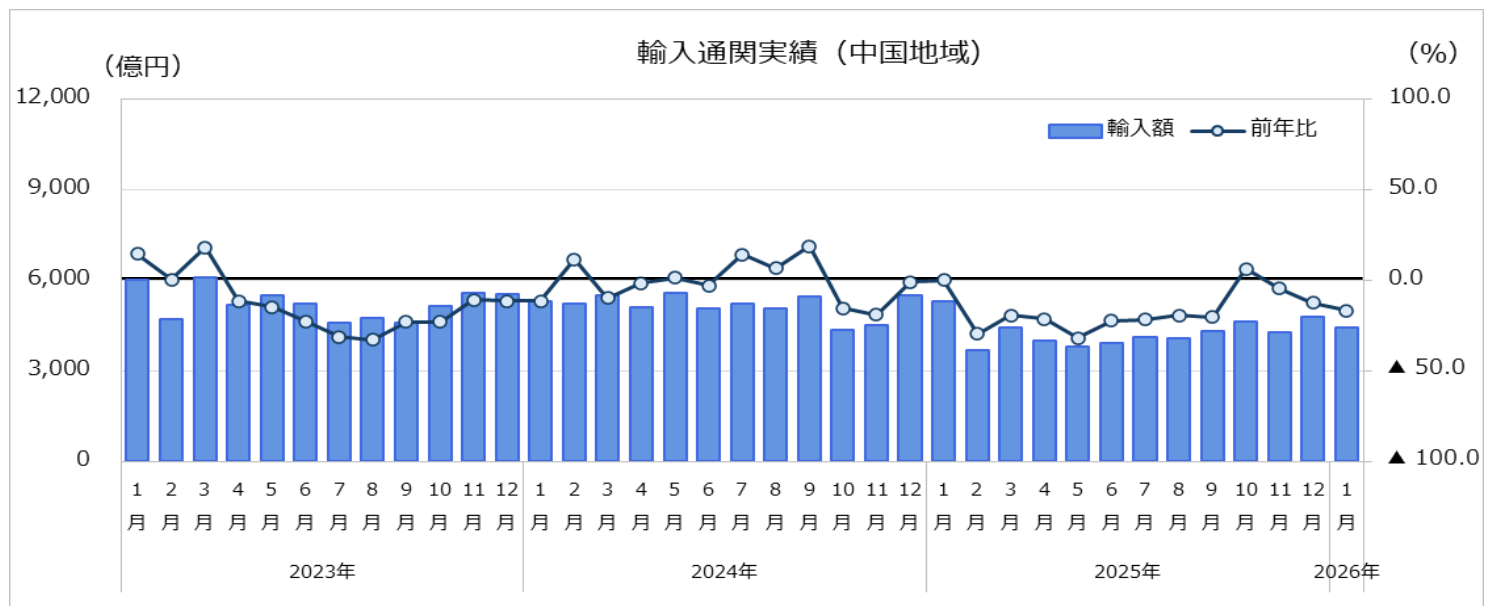


5. 貿易 ～輸出、輸入ともに前年同月比で減少～

2026年1月の輸出は、前年同月比▲1.7%と2か月連続で前年を下回った。品目別では、船舶、鉄鋼などが前年を下回った。地域別では、中南米、北米向けなどが前年を下回った。



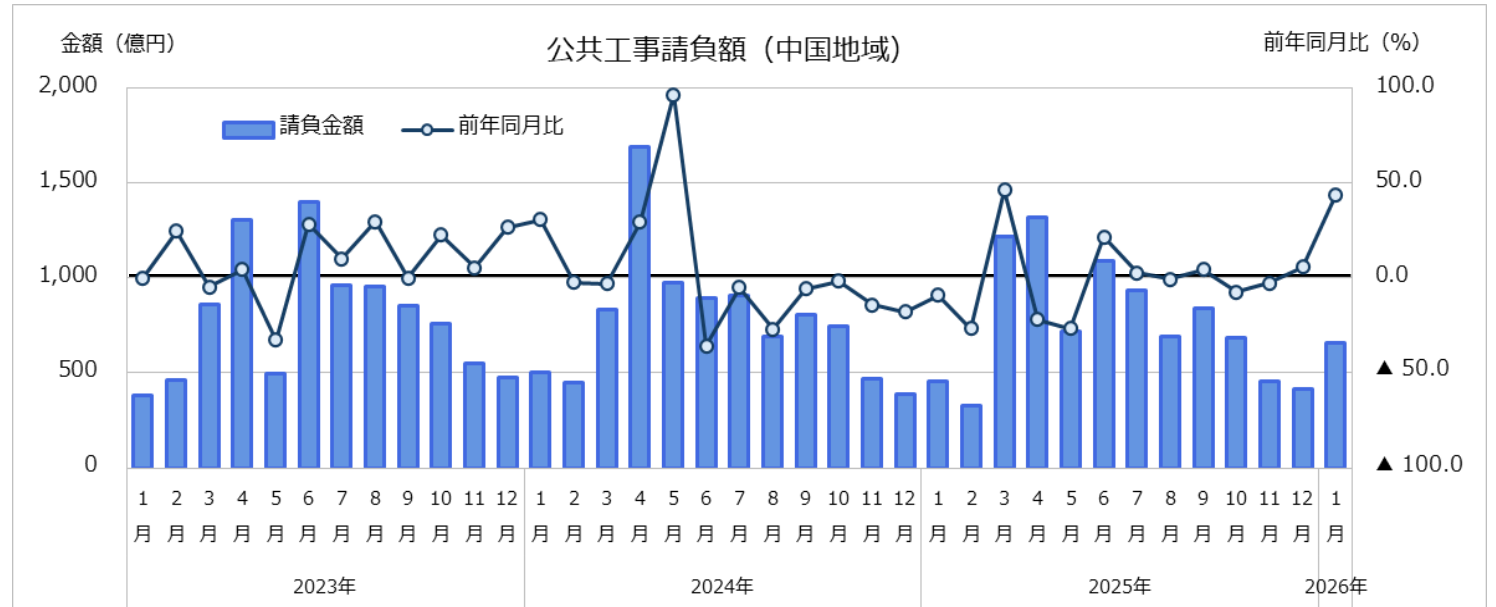
2026年1月の輸入は、前年同月比▲16.9%と3か月連続で前年を下回った。品目別では、原油及び粗油、石油製品などが前年を下回った。



6. 建設動向 ～公共工事、住宅建設ともに前年同月比で増加～

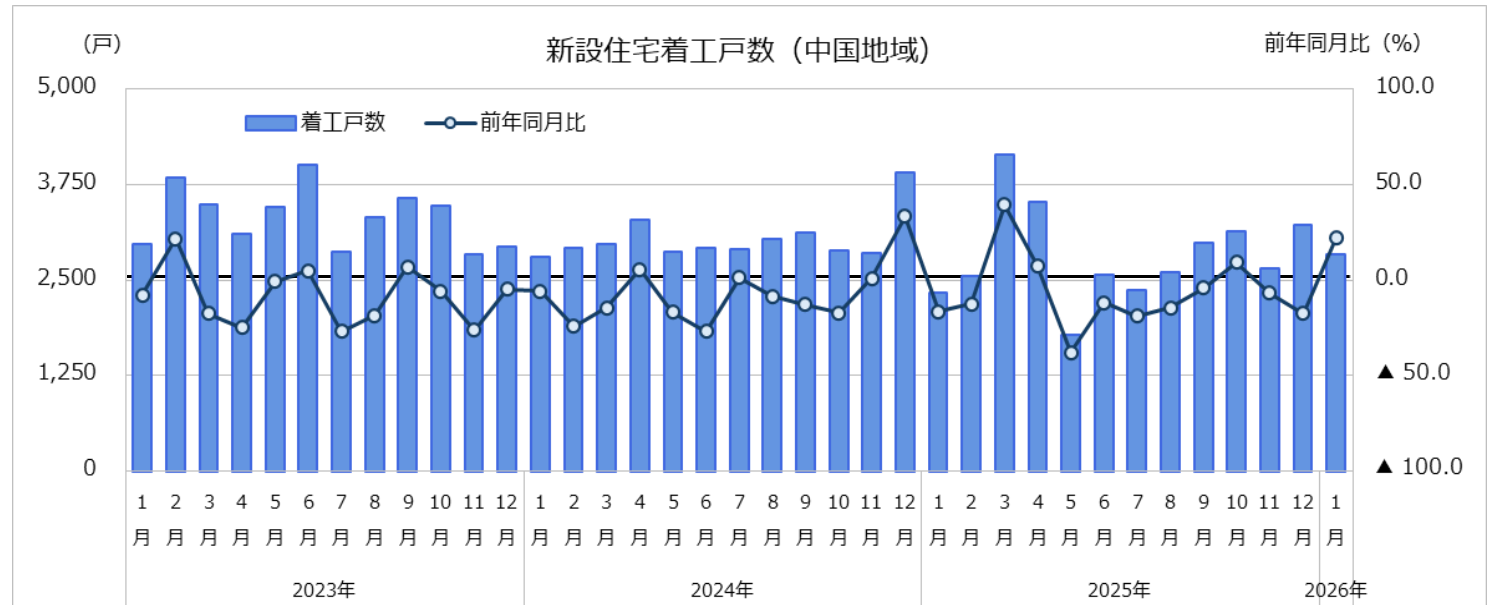
2026年1月の中国地域の公共工事請負金額は、その他公共的団体で前年を下回ったものの、国、独立行政法人等、県、市町村で前年を上回った。合計では前年同月比43.7%と2か月連続で前年を上回った。

(資料) 西日本建設業保証(株)広島支店



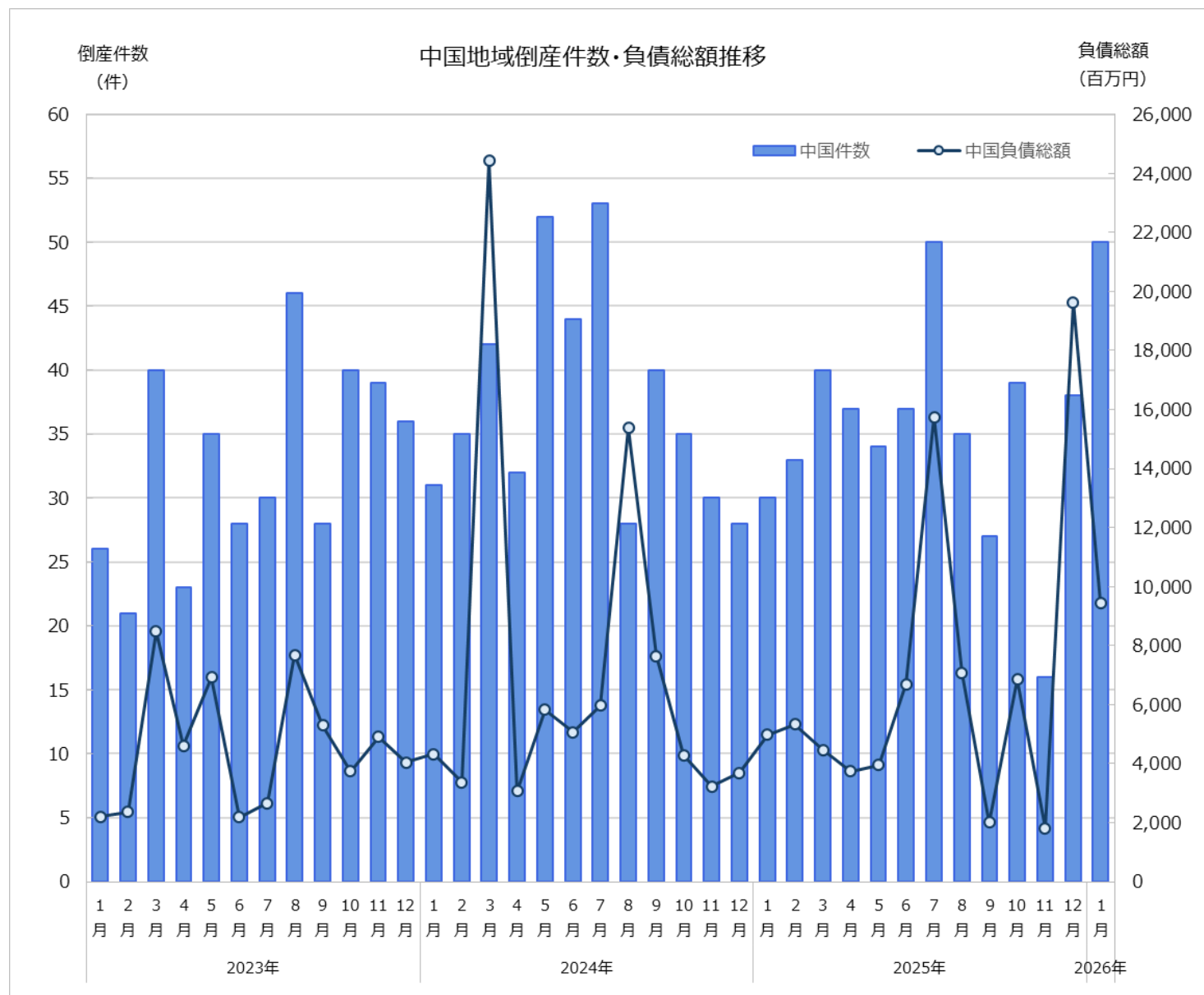
2026年1月の新設住宅着工戸数は、分譲住宅で前年を下回ったものの、持家、貸家、給与住宅で前年を上回った。合計では前年同月比22.0%と3か月ぶりに前年を上回った。

(資料) 「建築着工統計調査報告」 (国土交通省)



7. 企業倒産 ～件数、負債総額とも前年同月比で増加～

2026年1月の企業倒産件数は50件で、前年同月比66.66%と2か月連続で前年を上回った。また、負債総額は94億5,900万円で、前年同月比89.74%と2か月連続で前年を上回った。業種別にみると、サービス業他が13件、建設業及び小売業が10件、製造業が9件などとなった。原因別にみると、販売不振が37件、既往のシワ寄せが10件、過小資本、他社倒産余波及びそのほかが1件となった。



8. 設備投資 ～2025年度計画は前年度を上回る見込み～

日本銀行広島支店の企業短期経済観測調査結果(2025年12月)によると、2025年度の設備投資計画(含む土地投資額)は、製造業が前年度比27.7%、非製造業が同▲6.1%となり、全産業では同10.1%となっている。

(注) 横軸に初回調査(3月調査)から実績が確定する翌年6月調査までの6調査回を取り、毎年度の設備投資計画について、調査回毎の前年比の足取り(修正パターン)をグラフで示したもの。

